精神看護学における患者理解と「かかわり」を深めるシミュレーション教育の開発を目指して

関連するSDGsの国際目標



人間看護学部　人間看護学科　　講師　　下通　友美
研究分野：精神看護学、看護教育、シミュレーション教育

精神看護学教育では、患者の言動の背景にある思いや苦痛を理解し、患者との関係性の中でかかわりを調整する力を育成することが重要である。しかし、精神看護の援助は状況依存的であり、講義のみでは学生が実践場面を具体的にイメージしにくい。また、臨地実習においても、学生が精神疾患をもつ患者とのかかわりを十分に体験できる機会には限りがある。
研究者は、俳優を模擬患者として活用したシミュレーション教育を実施し、看護学生が安全な学習環境の中で患者理解と実践的なかかわりを学ぶ過程を検討している。

■俳優を模擬患者として活用した学習場面の構築

俳優を模擬患者として活用し、精神看護学の学習場面を設定している。俳優の演技力や即興性を活かし、学生は患者の表情、沈黙、戸惑いなどの反応に直面しながら、実践に近いかかわりを体験する。

このような学習場面では、学生は患者にどのように声をかけるか、どの距離でかかわるか、どのように患者の思いを理解するかを考える。さらに、うまくかかわれなかった体験や自己の感情も振り返りの素材となり、患者理解や自己理解を深める学びにつながる。

■患者理解とかかわりを深める振り返り学習

シミュレーション教育では体験そのものだけでなく、その後の振り返りが重要である。学生は、自分が患者をどのように理解しようとしたのか、どのような感情や迷いが生じたのか、患者の反応をどのように受け止めたのかを振り返る。

この過程を通して、学生は患者を一人の人間として理解する視点をもち、精神看護学の知識と技術を実践場面に結びつけて考えるようになる。また、看護者側の一方的な判断ではなく、患者とともに考え、患者のペースや思いを尊重しながらかかわる姿勢を学ぶことができる。